

## 歌のはじまりはドレミ

今年も府中の夏祭、ドレミファフェスティバルの熱気漂う頃となりました。府中シティオーケストラが同祭りの協賛事業としてドレミファコンサートを開催させていただき、今年でちょうど10年目を迎えます。クラシックに限定せず、オーケストラを身近に感じられて、親子で楽しむ、会場みんなが参加できるコンサートを開催したいという思いから始めたものでした。お祭りの名前が「ドレミファ」というのも、この企画にマッチしていたのです。

ところで、「ドレミファ」って何でしょう？今日はそんなお話です。

世の中に歌は山ほどありますが、「ドレミの歌」ほど多くの人に歌われる歌も少ないのではないのでしょうか。これは、ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」(映画にもなりました)の挿入歌です。

第2次大戦末期、ドイツ帝国に併合されたオーストリアが舞台。厳格なトラップ家の家庭教師として雇われたマリアは、子どもたちに音楽の楽しさを教えようとします。「さあ、基礎から始めましょう。何かを始めるのに一番良いのは最初から。文字のは

じまりはABC。歌のはじまりは、ドレミ…」と歌い始めるのです。ドイツ語圏のお話ですが、ブロードウェイミュージカルなので、台詞は英語です。では、ドレミというのは英語？

原曲では「ドは**ド**ーナツのド」とは歌いません。この曲を日本語に訳す時に直訳がどうしてもうまくいかず、「ド」のつくものをあれこれ探したのでしょう。それを「ドーナツ」にしたのは、名歌手ペギー葉山さんです。その他にも、「ドは**ド**ラムのド」とか、「ドは**ど**ころのド」とか、「ドは**ど**こまでも」などという日本語訳があります。中でも、ドーナツはアメリカの印象にぴったりで、ペギーさんの曲がNHK「みんなの歌」で流れ、音楽の教科書にまで掲載されたことで、決定盤となりました。

しかし、職場のアメリカ人女性に聞いてみると、アメリカでは音の名前を「ドレミ」とは言わず、「CDE (シーディーイー)」と言うそうです。つまり、単にアルファベットで呼ぶのです。「CDEFGAB」が、アメリカの「ドレミファソラシ」です。ドイツに行くと、「CDEFGAH」と、BがなぜかHになります。それでも、アルファベットを音の名前にあてるのは英語と共通

しています。

ならば、「ドレミ」は何語？。実はイタリア語です。(フランス語でもほぼ同様) どうして、そんな音名になったのかというと…とても紙面が足りませんので、「宗教的な歌から生まれた呼び名」とだけ言っておきましょう。

では、「ドレミファソラシ」を日本語にしたらどうなるか。それは、「ハニホヘトイロ」です。「ドレミファ」は「ハニホヘ」。つまり、ドレミファコンサートを日本語で表わすなら、「ハニホヘ演奏会」となるわけです。案外かわいい響きです。

「ハニホヘ祭り」も、なんだかいけそうではありませんか？

